様式１

【保土ケ谷区】令和８年第３回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	令和８年９月３日　　午前９時 26 分　～　午前 10 時 27 分
場　　所	保土ケ谷区役所本館４階　４０１会議室
出 席 者	【座　　長】　斉藤　伸一　　議員 【議　　員】　森　ひろたか　議員 青木　亮祐　　議員 磯部　圭太　　議員 関　　嵩史　　議員 【保土ケ谷区】　神部　　浩　　区長 松木　隆典　　副区長 半田　恒太郎　福祉保健センター長 小池　道子　　福祉保健センター担当部長 本橋　康武　　保土ケ谷土木事務所長ほか関係職員
議　　題	１　令和７年度保土ケ谷区個性ある区づくり推進費執行実績について ２　令和８年度保土ケ谷区個性ある区づくり推進費執行状況について ３　令和９年度保土ケ谷区予算編成の考え方について ４　その他
発 言 の 要　　旨	**議題１　令和７年度保土ケ谷区個性ある区づくり推進費執行実績について** 質疑なし **議題２　令和８年度保土ケ谷区個性ある区づくり推進費執行状況について** **(1) 区制 100 周年事業について** 森議員： 保土ケ谷の逸品について、徐々に広がっていて今後も広がっていくと思う。登録は第二弾で一旦目途をつけて広報物を作成するという事だが、100 周年までまだ１年近くあるので、冊子化するかは別として第３弾４弾と、しっかりその取組は継続してもらいたい。 神部区長：

	保土ケ谷の逸品は、大変好評いただいている。認定された商品は、お店の皆さんはもちろん、区民の皆さんにもこういうものがあったのかということで大変喜んでいただいている。一旦この２回の募集までということで進めてきたが、来年 10 月までまだ１年あるので、実行委員会と検討していきたい。 森議員： 逸品の中には、保土ケ谷の新たな名物、ほどぴーが使われたものも作られていると聞いているので、せっかくの機会なので町おこしと地域経済につながっていく取組にしていただきたい。また、逸品を回る SNS が散見されているが、登り旗と逸品の認定証だけだと SNS 上でわかりづらいので、100 周年と同じように逸品マークのデータ配布ができれば、バズル要素になると思う。また、クラウドファンディングは、目標金額はもっと高く設定してもらい、志も高く持って、もう少し頑張ってほしい。 **(2) 災害対策推進事業【20 万区民の自助・共助による減災運動】** 森議員： 水害について、直近では千葉・福井で大変な被害があったが、保土ケ谷区で想定を超える雨量に対して検討をしているのか。 神部区長： 千葉の豪雨は、浸水想定区域以外も浸水したということで大変ショッキングな災害だが、現在横浜市全体として浸水想定の見直しを下水道河川局を中心に進めている。新たな気象情報も整理されたので、皆さんが命を守る行動変容につながるような啓発も含めてしっかりと取り組んでいかなければならない。ハードウェアに関しては、先日下水道河川局、県治水事務所と意見交換の場を設けたが、帷子川、今井川の治水力をさらに高めていくためには、互いに連携して一生懸命に取り組む必要があると考えている。 森議員： ハード整備は、急に整備はできないので、引き続きお願いするが、千葉や福井がかなりの被害を受けているので、特に天王町、帷子川沿いの町内自治会の皆様と今までの避難に問題はないのか、また見直す必要性がある

	のかないのかということを区役所として早急に対応してほしい。 **(3) 地域見守り推進事業** 質疑なし **議題３　令和９年度保土ケ谷区予算編成の考え方について** 質疑なし **議題４　その他** **(1) 帷子小学校コミュニティハウス全面開館について** 森議員： 峯小学校コミュニティハウスの利用団体の皆様は、工事期間中、学校施設を活用しながら活動を継続されてきたものと認識している。今回、帷子小学校コミュニティハウスが新たにオープンすることにより、これまで利用してきた宮田中学校をはじめとする各学校施設の開放については、今後も継続するのか、それとも終了するのか。また、利用者の皆様から、継続を希望する声があったのかについても併せて伺いたい。 大峡学校支援・地域連携課長： 工事期間中の代替施設についてですが、工事により活動場所が利用できなくなることから、近隣の学校施設を代替施設としてご利用いただいていた。具体的には、帷子小学校の学校・地域交流室および家庭科室、峯小学校の体育館ミーティングルーム、宮田中学校の会議室の３校４施設をご利用いただいていた。しかしながら、今回の本格オープンに伴い、これら代替施設の利用については 9 月 30 日をもって終了することとしており、この点については、8 月 3 日に開催した説明会において利用者の皆様へ説明しており、特段の反対意見はなかった。 森議員： 峯小学校から帷子小学校へ移設する際には、児童数の人口推計から今後 10 年程度は教室利用の見込みがないとの見通しのもとで改修を行ったと記憶しているが、その状況に変化はないのか。 大峡学校支援・地域連携課長： 教育委員会では人口推計等を注視しており、現時点において帷子小学校

	で教室が不足するとの見込みは出ていない。今後についても、帷子小学校に限らず各学校の児童数の推移を継続的に確認しながら、適切に施設を活用していきたい。 **(2) 羽沢横浜国大駅南側エリアにおけるデマンド型地域公共交通の実証運行について** 青木議員： 地域交通（おでかけシャトル）を運行するに当たり、羽沢横浜国大駅には乗降スポットが設置されている一方で、上星川駅には設置されていない。地域と羽沢横浜国大駅や上星川駅が結ばれることで、点と点が線としてつながり、大きな効果が生まれると考えている。上星川駅に乗降スポットを設置できない理由について伺いたい。 水谷地域交通推進課長： 地域交通（おでかけシャトル）は交通空白地等にお住まいの方が最寄り駅などへ移動することを主な目的としており、羽沢横浜国大駅前については、タクシーやバスの乗降スペースがあり、乗降スポットとして活用できる状況にある。一方、上星川駅については、北側に国道 16 号が通っており、南側もロータリー状のスペースはあるが、乗降スポットとして活用できる十分な広さの停車場所の確保が難しい状況となっている。現在、警察とも協議を行いながら、停留所の設置が可能となるよう調整を進めている。警察からは、おでかけシャトルが長時間停車することで一般交通に影響が及ぶ懸念も示されたため、乗降に要する時間などの条件を整理しながら、設置に向けた調整を続けている。調整が整い次第、乗降スポットを追加し、利用者の皆様へ周知していきたいと考えている。 青木議員 収支率 50%という目標は相当高いハードルだと思う。その達成のためにも、私は上星川駅への接続は不可欠だと考えている。北側はバスの出入りや国道の存在もあり難しい面があると思うが、南側で何とか場所を確保できないか、引き続きご検討いただきたい。地域と駅を結ぶことは非常に重要なので、今後も調整をお願いしたい。 森議員 現在、病院などの送迎バスは上星川駅南口付近の薬局前のスペースで乗

	降していると認識している。そのような利用が行われている一方で、おでかけシャトルの乗降が認められないということについては、理屈として理解しにくい部分がある。青木議員がおっしゃったように、上星川駅との接続は非常に重要だと思うが、警察から具体的な理由の説明を受けているのか。 水谷地域交通推進課長 　警察からは乗降時に停車することで、一般の交通に影響が出る可能性があるためと言われている。しかし、先生からいただいたご意見なども踏まえ、警察と改めて協議し、より適切な乗降スポットの確保に向けて調整を進めていく。 森議員 　他地区でデマンド型交通が苦戦している事例もあるというが、その大きな理由は何か。 水谷地域交通推進課長 　現在実証運行中の事例としては、青葉区の「あおばGO！」があるが、収支率が伸び悩んでいる状況。認知度は一定程度あるものの、周辺に既存のバス路線やタクシーが広く運行しているため、それらとの競合により利用者数が伸びにくいことが要因の一つと考えている。 森議員 　利用率を上げることは大変重要だと思うが、収支率向上のために運賃を上げすぎると、利用したいというニーズそのものが減少してしまう可能性があり、特に子ども料金が200円という設定についても、利用実態を見ながら検討の余地があるのではないかと感じている。運用を進める中で、利用者にとって最適な料金体系について引き続き検討していただきたい。 磯部議員 　乗降スポットの増設について、運行エリア外への乗降スポット設置を求める要望があった場合は、どのように対応するのか。 水谷地域交通推進課長

	今回の取組では、羽沢横浜国大駅や食品館あおば常盤台店など、エリア外にも一部乗降スポットを設けている。ただし、基本的にはエリア内での設置を前提としており、エリア外への設置については、既存の交通事業者への影響や競合状況などを確認しながら、個別に調整を行うことになると考えている。 磯部議員 今のお話を伺うと、上星川駅への接続はぜひ実現していただきたい。ただ一方で、この地域には相鉄バス浜 11 系統が運行しており、もし地域交通（おでかけシャトル）の利用が増えて上星川駅への移動需要が集中した場合、既存バス路線の減便や短縮運行につながる可能性もあるのではないかと懸念している。この点について見解を伺いたい。 水谷地域交通推進課長 今回の地域交通（おでかけシャトル）導入に当たり、相鉄バスや神奈川中央交通などの事業者と協議を重ねてきた。事業者からは、既存バス路線と完全に重複する区間については地域交通（おでかけシャトル）での運行を控えてほしいとの意見をいただいている。そのため、例えば羽沢横浜国大駅から上星川駅までのように既存バス路線で結ばれている区間については、地域交通（おでかけシャトル）では直接利用できない仕組みとしている。 磯部議員 そのような運用では、利用者ニーズと制度運用の間に乖離が生じ、利用率や収支率が伸びにくくなる可能性もあると思う。そうした場合、どのようにバランスを取っていくのか。 水谷地域交通推進課長 私どもは、地域交通を増やす取組と、既存のバス路線を維持する、地域交通を守る取組の双方を担っており、どちらか一方だけではなく、地域全体にとって最も望ましい交通体系となるよう、両者のバランスを取りながら調整したいと考えている。 磯部議員

	私としては、まず既存のバス路線が減便や短縮運行とならないよう配慮していただきたい。また、本格運行につなげるために、区役所と道路・交通政策局が連携して取り組んでいただきたいと考えている。さらに、タクシーや病院送迎バスの運用実態も踏まえ、制度や運用と実態との間に乖離がある場合には、関係機関と十分に調整しながら課題解決に努めるよう要望する。 斉藤議員 この件については微力ながらお手伝いをさせていただいている。地域交通推進課の皆様が、さまざまな関係者との間に立って大変なご苦労をされていることもよく承知している。 運行主体の皆様も、特に上星川駅との接続は不可欠であるとの認識のもと、実現に向けて努力されている。北側については警察との協議や停車場所の確保といった課題がある。また南側についても、河川管理用地の活用を検討したが、間に民有地が存在し、境界も未確定であるなどの事情から容易ではない状況と聞いている。 それでも何とか実現したいという思いで関係者が力を合わせて取り組んでいるので、議員の皆様からもよいアイデアがあったらぜひお寄せいただきたい。上星川や羽沢の地域は起伏も多く、高齢者の方も多く住んでいる。駅へのアクセスが確保されなければ事業効果が大きく損なわれてしまうと考えている。区役所や土木事務所の皆様にも、引き続き力を合わせて取り組んでいただくようお願いしたい。
備　　考	